

プログラム一覧

大会テーマ

地域のくらしの再興から自治へ

＜午前部 (10:00~12:00)＞

セミナーⅠ 生活者の視点に立った内発的まちづくりの可能性を探る
～地域主権社会の確立と地方の自立(自律)力の向上を目指して～

地域自治力を高めるため、＜農＞と＜食＞をとおして人と自然、人とひとの関係を見つめなおし、再構築することが大切です。その関係が疎遠になっている度合いに応じ、地域自治力が弱まっているのではないのでしょうか。この現状をつぶさにみながら、持続可能な地域のくらしと底力を考えます。

- パネリスト
中島 興世(恵庭市長)
関原 剛(NPO 法人かみえちご山里ファンクラブ)
白石 克孝(龍谷大学)
- コーディネーター
進士 五十八(東京農業大学)

セミナーⅡ 地方分権改革の今後 ～自治のかたちと市民のくらし～

第2次分権改革から第3次分権改革へと、分権改革の流れは新たな段階へ進んでいこうとしている。
いまここで、第2次分権改革までを総括するとともに、これからの分権改革はどのようにするのか、どうなっていくのかという今後の分権改革の行方を考察していく

- パネリスト
大森 彌(東京大学名誉教授)
森田 朗(東京大学)
- コーディネーター
磯崎 初仁(中央大学)

セミナーⅢ 東北を知る・学ぶ・あじわう ～地域文化と共同性の再発見～

私たちが地域で暮らし続けることを可能にするには、地域コミュニティのネットワークが不可欠である。にもかかわらず、人口減少、過疎が問題となり、人間関係の希薄さを感じさせられていることも事実である。
このような中で新しい共同性を求め「まちづくり」や「むらおこし」が試みられている。また、かつては社会問題とされてきた課題が、新たな公共として議論されている。そこで改めて問われるのが、「地域への信頼」と「地域の価値」ではないのだろうか。そのことを、地域の魅力・文化・人・自治から探ってみよう。

- パネリスト
本田 敏秋(遠野市長)
金野 静一(元岩手県立博物館長)
大矢 邦宣(平泉郷土館長、盛岡大学)
- コーディネーター
大泉 太由子(東北開発研究センター)

＜午後部 (13:00~15:45)＞

分科会1 農と食を通して考える持続可能な地域社会 ～循環社会の仕組みづくり～

「食の安定」と「食の安全・安心の確保」が、喫緊の課題となっています。こうしたことから、各地域の取り組み事例を通し、＜農＞と＜食＞にかかわる現状の問題点・課題を踏まえた取り組みに学び、将来に向かって維持可能な循環社会のあり方を考えます。特に、生活に深くかかわるところでの地域システムとその主体形成の取り組みの方策を探ります。

- パネリスト
結城 登美雄(民俗研究家)
高比良 伶子(埼玉学校給食を考える会)
熊谷 健一(岩手中央農業協同組合)
- コーディネーター
後藤 仁(神奈川大学)

分科会2 人口減少時代のくらし再構築 ～農山村地域のくらし・生き方の転換～

2005年、わが国は戦後はじめて人口が減少、今後もこの傾向は加速度的に進行することが予測されることから、これまでとは異なる制度設計と生き方が求められています。このため、各地域の状況と取り組み事例を踏まえ、人口の減少や少子高齢化など人口構成の変化とその影響を、まずはありのままの状態で捉え、それに適切に対応する新たなくらし、地域社会のあり方を探ります。

- パネリスト
松島 貞治(長野県泰阜村村長)
黍嶋 久好(愛知大学三遠南信地域連携センター)
増田 進(前沢内病院長)
- コーディネーター
佐藤 滋(早稲田大学)

分科会3 合併と自治の今とこれから ～合併は自治を高めたか～

市町村合併に意欲的に取り組んだ岩手県内の状況などもふまえ、合併により地方分権改革はどうすすんだのか、市民にとっての自治はどう変化したのか。「合併と自治の今とこれから」について、考察していきたい。
具体的には、平成の大合併を検証しつつ、自治体が自治の主体として変革するために求められるものや、公共領域における中央政府と基礎自治体との関係など、合併した自治体、しなかった自治体それぞれの選択をふまえ、分権改革における自治のあり様と市民の役割などを考察していく。

- パネリスト
藤原 孝(紫波町長)
小田島 峰雄(岩手県議会議員)
松本 克夫(ジャーナリスト)
- コメンテーター
島田 恵司(大東文化大学)
- コーディネーター
今井 照(福島大学)

分科会4 地方分権における議員の役割 ～議論する議会、提案する議会～

地方自治体の議会は二元代表制の一翼を担っているが、多くの議会や議員は、必ずしも市民の代表としての責務が全うされているとは思えない。一方、独自に議会改革の取り組みを進めている議会や、独自の活動の中ですぐれた実績をあげている議員も大勢いる。このような差異はなぜ生じるのか。市民代表としての議員はどうあるべきか、議会制度改革を含めて、地方分権にふさわしい議会と議員のあり方について議論を深める。

- パネリスト
高橋 博之(岩手県議会議員)
野々上 愛(高槻市議会議員)
山本 啓(東北大学)
矢野 奨(河北新報社)
- コーディネーター
佐藤 邦夫(奥州市議会議員)

分科会5 都市と農山漁村の交流 ～東北のくらしを活かすツーリズムの展開～

近年、観光に求める志向に「癒し」や「体験」などがあげられる。そこで、非日常の暮らしの中に身を置き、地元人との交流を楽しむさまざまなツーリズムが注目されている。

東北の多くの自治体では、人口減少が著しい中で、交流人口の拡大策として多様なツーリズムに取り組んでいるが、その課題も多い。都市と農山漁村をつなぎ結ぶ、東北におけるツーリズムをどう考えればいいのかを、実践者で議論する。

- パネリスト
菊池 新一(NPO法人 遠野山・里・暮らしネットワーク)
猿舘 祐子(株式会社土澤まちづくり会社)
藤井 けい子(農家民宿「泰山堂」)
沼尾 波子(日本大学)
- コーディネーター
岡崎 昌之(法政大学)

分科会6 地域のまつり・文化と共同性 ～地域のまつりが文化・くらしの底力～

分科会6ではセミナーⅢでの「地域への信頼」、「地域の価値」の議論を踏まえ、事例として「祭り」をとりあげる。「祭り」を「まちづくり」「むらおこし」の視点から、その「共同の過程」あるいは「交流」に着目してみたい。「祭り」といった共通する経験の記憶によって、諸個人のアイデンティティの確立と地域における共同性の再発見がいかにしてなされてきたか。そこから新たな公共性と新たな共同性の交点を構想したい。

- パネリスト
熊坂 義裕(宮古市長)
中村 一郎(岩手県総合政策部)
- 事例報告
和井内 信行(盛岡商工会議所 地域活性化支援チーム)
鈴木 好喜(南相馬市役所)
北口 和男(浅沢神楽保存会事務局)
- コーディネーター
中筋 直哉(法政大学)

分科会7 市民と行政の協働型評価 ～市民の参加の新たなツールを目指して～

近年、NPOなどの公共的セクターと行政とのコラボレーションの必要性が叫ばれている。単なる委託関係を越えた、新しい形の「協働」をいかにして実現していくかが課題となっている。

本分科会では、市民等と行政が協働した評価(協働型評価)を「協働」の重要なツールとしてとらえ、評価事例の検証や課題と可能性の抽出、さらには今後の方向性や具体的な取り組みについて議論を深める。

- パネリスト
高橋 敏彦(NPO法人 いわてNPO-NETサポート)
佐治 錦三(東海市役所)
保 和衛(岩手県商工労働観光部)
南島 和久(神戸学院大学)
- コーディネーター
佐藤 徹(高崎経済大学)

分科会8 まちづくりは条例づくり ～自分たちのまちは自分たちでつくる～

これまで自治体でつくられた条例には様々なものがありましたが、この条例づくりが自治体政策の幅を広げてきたことにお気づきでしょうか。自治体にとって条例をつくり、使いこなすことが、これからの新しい自治体活動をサポートしていくのではないのでしょうか。ここではいろいろな分野の条例を例に行政の問題解決に向けての条例について検討してみたい。

- パネリスト
津軽石 昭彦(岩手県生活環境部)
藤澤 浩子(NPO法人
よこすかパートナーシップサポーターズ)
鈴木 邦俊(第三セクター(株)なかさと)
佐々木 雅博(紫波町議会議員)
- コーディネーター
天野 巡一(青森公立大学)

＜ まとめ (15:55～16:30) ＞

まとめ

これまでの大会では、分科会を時刻ぎりぎりまでやって、即エクスカージョンへ、あるいは帰宅に向かうということとなり、セミナーや分科会でどのようなことが語られ、何が提起され、何が課題として認識されたかが、最終報告書が手元に届くまで、十分に判らないということもありました。そこで今回は、各分科会が終了したら全体でもう一度集まり、今回の成果や課題を共有する機会として短時間ですが「まとめ」を行い、その後各地へと散っていきたいと思います。皆様のご協力をお願いします。

- 報告者
各セミナー、分科会の出席者等
- コーディネーター
原 昭夫(自治体まちづくり研究所)

ポスターセッション

地域ブロック単位、個人・団体の報告書などの配布・展示、自治体の取り組みの紹介、出版物の展示・配布等を通して、参加者が交流・意見交換できる場としてポスターセッションを開催します。

(8月21日(木)・22日(金))

エクスカージョン

- ① 平泉歴史コース、② 平泉自然コース、③ 遠野物語コース
- ④ 三陸ネイチャーコース、⑤ 盛岡周辺コース